

妙法蓮華經觀世音菩薩  
普門品第二十五

經題

みようほうれんげきようかんぜおん  
ぼさふもんぼんだいにじゅうご  
五 妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十

爾時無盡意菩薩即從座起  
偏袒右肩合掌向佛而作是  
言

にじむじんにぼさ そくじゅうざき  
へんだんうけん がっしょうこうぶ  
つ にさぜごん  
そのとき、無盡意菩薩は、すなわち座よ  
り起ち、偏えに右の肩を袒ぎ、合掌して  
仏に向かい、しこうしてこの言を作す。

世尊觀世音菩薩以何因緣  
名觀世音

せそん かんぜおんぼさ いがいん  
ねん みようかんぜおん  
世尊よ。觀世音菩薩は、何の因緣を  
もつて、觀世音と名づくるや。

佛告無盡意菩薩善男子若  
有無量百千萬億衆生受諸  
苦惱

ぶつごう むじんにぼさ ぜんなん  
しにやくうむりようひやくせんま  
んのくしゅじよう じゅしよくのう  
仏は、無盡意菩薩に告ぐ。善男子  
よ。もし無量の百千万億の衆生あり  
て、もろもろの苦惱を受けんに、

聞是觀世音菩薩一心稱名  
觀世音菩薩即時觀其音聲  
皆得解脫

もんぜかんぜおんぼさ いっしんしょう  
みよう かんぜおんぼさ そくじかんご  
おんじよう かいとくげだつ  
この觀世音菩薩を聞いて、一心に名  
を称すれば、觀世音菩薩は即時にそ  
の音声を觀じて、みな解脫を得せし  
めん。

若有持是觀世音菩薩名者  
設入大火火不能燒由是菩  
薩威神力故

にやくうじぜ かんぜおんぼさみよ  
うしや せつにゆうだいか かふの  
うじよう ゆぜぼさ いじんりきこ  
もしこの觀世音菩薩の名を持つことあら  
ば、たとひ大火に入るも、火の焼くこと  
あたわず、この菩薩の威神力のゆえに。

【七難】 火難

若為大水所漂稱其名號即  
得淺處

にやくいだいすいしよひよう じよ  
うごみようごう そくとくせんじよ  
もし大水の漂うところとなるとも、  
その名號を称すれば、すなわち淺き  
處を得ん。

【七難】 水難

若有百千萬億衆生為求金  
銀琉璃碑磔碼碯珊瑚琥珀  
眞珠等寶

【七難】 風難

にやくうひやくせんまんのくしゆじよう  
いぐこん こん るりしやこめほう  
さんご こはく しんじゆとうほう  
もし百千万億の衆生ありて、金・  
銀・琉璃・碑磔・碼碯・珊瑚・琥  
珀・眞珠等の寶を求めんがために、

入於大海假使黑風吹其船  
舫飄墮羅刹鬼國

【七難】 風難

にゆうおだいかい けしこくふう  
すいごせんぼう ひようだらせつき  
こく  
大海に入るに、たとい黒風のその船  
舫を吹いて羅刹鬼の國に飄墮せしむ  
とも、

其中若有乃至一人稱觀世  
音菩薩名者

【七難】 風難

ごちゆうにやくう ないしいちにん  
しようかんぜおんぼさみようしや  
その中に、もし、ないし一人の觀世  
音菩薩の名を稱するものあらば、

是諸人等皆得解脱羅刹之  
難以是因縁名觀世音

【七難】 風難

ぜしよにんとう かいとくげだつ  
うかんぜおん いぜいんねん みよ  
このもろもろの人ら、みな羅刹の難  
を解脱することを得ん。この因縁を  
もつて、觀世音と名づくるなり。

若復有人臨當被害稱觀世  
音菩薩名者彼所執刀杖尋  
段段壞而得解脱

【七難】 劍難

にやくぶうにん りんとうひがい しようかん  
ぜおんぼさみようしや ひしよしゆうとうじよ  
う じんだんだんね にとくげだつ  
もしまた人ありて、まさに害されんとするに、  
觀世音菩薩の名を稱すれば、かの執るところの  
刀杖は、たちまち段段に壞れて、解脱すること  
を得ん。

若三千大千國土滿中夜又  
羅刹欲來惱人

【七難】 鬼難

にやくさんぜんだいせんこくど ま  
んちゆうやしやらせつ よくらいの  
うにん  
もし三千大千國土の中に満つる夜  
又・羅刹の、來たりて人を惱まさん  
とするも、

聞其稱觀世音菩薩名者是  
諸惡鬼尚不能以惡眼視之  
況復加害

【七難】 鬼難

もんごしようかんぜおんぼさ みよう  
しや ぜしよあつき しようふのうい  
あくげんじし きようぶかがい  
その觀世音菩薩の名を稱することを聞かば、こ  
のもろもろの惡鬼は、なお惡眼をもつてこれを  
視ることあたわず。況んやまた害を加えんを  
や。

設復有人若有罪若無罪  
械枷鎖檢繫其身

【七難】 枷鎖の難

せつぶうにん にかくうざいにやくむざい ちゆうかいかさけんげご  
たといまた人ありて、もしくは罪あり、もしくは罪なくして、杻・械・枷・鎖もてその身を檢繫さるるも、

稱觀世音菩薩名者皆悉斷  
壞即得解脫

【七難】 枷鎖の難

しょうかんげおんぼさみようしゃ かいしつだんね そくとくげだつ  
觀世音菩薩の名を稱すれば、みなことごとく断壊して、すなわち解脫することを得ん。

若三千大千國土滿中怨賊  
有一商主將諸商人齎持重  
寶經過嶮路

【七難】 怨賊の難

にやくさんぜんだいせんくど まんちゆうおんぞく ういちしようしゆ しようしよしよう さいじじゆうほう きようかけんる  
もし三千大千國土の中に滿つる怨賊ありて、一の商主ありてもろもろの商人を將、重寶を齎持して嶮路を経過するに、

其中一人作是唱言諸善男  
子勿得恐怖汝等應當一心  
稱觀世音菩薩名號

【七難】 怨賊の難

ごちゆういちにん させしようごん しようせんなんし もつとくくふ によとうおうとういつしん しようかんげおんぼさみようごう  
その中の一人この唱言を作さん。もろもろの善男子よ、恐怖を得ることなかれ。なんじら、まさに一心に觀世音菩薩の名號を稱すべし。

是菩薩能以無畏施於衆生  
汝等若稱名者於此怨賊當  
得解脫

【七難】 怨賊の難

ぜぼさ のういむい せおしゆじよう によとうにやくしようみようしゃ おしおんぞく とうとくげだつ  
この菩薩は、よく無畏をもつて衆生に施す。なんじら、もし名を稱すれば、この怨賊よりまさに解脫することを得べし。

衆商人聞俱發聲言南無觀  
世音菩薩稱其名故即得解  
脫

【七難】 怨賊の難

しゆしようにんもん ぐほつしよう ぶん なむかんげおんぼさ しよう ごみようこ そくとくげだつ  
もろもろの商人は、聞きてともに声を發げて「南無觀世音菩薩」と言わん。その名を稱えしがゆえに、すなわち解脫することを得ん。

無盡意觀世音菩薩摩訶薩  
威神之力巍巍如是

無盡意よ。觀世音菩薩摩訶薩は、威神の力の巍巍たることかくのごとし。

むじんに かんげおんぼさまかさ いじんしりき ぎぎによぜ

若有衆生多於姪欲常念恭敬觀世音菩薩便得離欲

【三毒】 淫欲

にやくうしゆじよう たおいによ  
くじようねんくぎよう かんぜお  
んぼさ べんとくりよく  
もし衆生ありて淫欲多くとも、つね  
に念じて觀世音菩薩を恭敬すれば、  
すなわち欲を離るることを得ん。

若多瞋恚常念恭敬觀世音菩薩便得離瞋

【三毒】 瞋恚（怒り・ねたみ）

にやくたしんに じようねんくぎよ  
う かんぜおんぼさ べんとくりし  
ん  
もし瞋恚多くとも、つねに念じて觀  
世音菩薩を恭敬すれば、すなわち瞋  
を離るることを得ん。

若多愚癡常念恭敬觀世音菩薩便得離癡

【三毒】 愚痴

にやくたぐち じようねんくぎよう  
かんぜおんぼさ べんとくりち  
もし愚痴多くとも、つねに念じて觀  
世音菩薩を恭敬すれば、すなわち痴  
を離るることを得ん。

無盡意觀世音菩薩有如是等大威神力多所饒益是故衆生常應心念

25

むじんに かんぜおんぼさ うによぜと  
う だいいじんりき たしよにようやく  
ぜこしゆじよう じようおうしんねん  
無盡意よ。觀世音菩薩には、かくのごとき等の  
大威神力ありて、饒益するところ多し。このゆ  
えに、衆生はつねにまさに心に念ずべし。

若有女人設欲求男禮拜供養觀世音菩薩便生福德智慧之男

【二求章（にぐしやう）】 求男

にやくうによにん せつちよくぐなん  
らいはいくきよう かんぜおんぼさ べん  
しやうふくとく ちえしなん  
もし女人ありて、もし男を求めんと  
欲して、觀世音菩薩を禮拜し供養す  
れば、すなわち福德・智慧の男を生  
まん。

設欲求女便生端正有相之女宿植德本衆人愛敬

【二求章（にぐしやう）】 求女

せつちよくぐによ べんしやうたん  
じよう うそうしによ しゆくじき  
とくほん しゆうにんあいきよう  
もし女を求めんと欲すれば、すなわ  
ち端正有相の女の、宿、徳本を植え  
るをもて、衆人に愛敬さるるを生ま  
ん。

無盡意觀世音菩薩有如是力若有衆生恭敬禮拜觀世音菩薩福不唐捐

28

むじんに かんぜおんぼさ うによぜり  
き にやくうしゆじよう くぎようらい  
はい かんぜおんぼさ ふくふとうえん  
無盡意よ。觀世音菩薩にはかくのごとき  
力あり。もし衆生ありて觀世音菩薩を恭  
敬して禮拜すれば、福は唐捐ならず。

是故衆生皆應受持觀世音菩薩名號

ぜこしゆじよう かいおうじゆじ  
かんぜおんぼさみようごう  
このゆえに、衆生はみなまきに觀世音菩薩の名號を受持すべし。

無盡意若有人受持六十二億恒河沙菩薩名字

むじんに にかくうにんじゆうじ  
ろくじゆう におく ごうがしやぼさ  
みようじ  
無盡意よ、もし人ありて、六十二億の恒河の沙のごとき菩薩の名字を受持し、

復盡形供養飲食衣服臥具醫藥

ぶじんぎようくよう おんじきえぶ  
く がぐいやく  
また、形を盡くすまで飲食・衣服・臥具・醫藥を供養すれば、

於汝意云何是善男子善女人功德多不無盡意言甚多世尊

おによいいうんが ぜぜんしぜによ  
にん くどくたふ むじんにごんじ  
んた せそん  
汝が意においていかん。この善男子・善女人の功德多しや不や。無盡意の言わく、甚だ多し、世尊よ、

佛言若復有人受持觀世音菩薩名號乃至一時禮拜供養是二人福正等無異

ぶつごん にかくぶうにん じゆじかんぜおん  
ぼさみようごう ないしいちじ らいはいくよ  
う ぜににんぶく しようとうむい  
仏の言わく、もしまた人ありて、觀世音菩薩の名號を受持し、ないし一時も禮拜し供養すれば、この二人の福は正しく等しくして異なることなく、

於百千萬億劫不可窮盡無盡意受持觀世音菩薩名號得如是無量無邊福德之利

おひやくせんまんのつこう ふかぐうじん  
むじんに じゆじかんぜおんぼさみようごう  
くによぜむりようむへん ふくとくしり  
於百千萬億劫においても窮盡すべからず。無盡意よ。觀世音菩薩の名號を受持すれば、かくのごときの無量無邊の福德の利を得ん。

無盡意菩薩白佛言世尊觀世音菩薩云何遊此娑婆世界

むじんにぼさ びやくぶつごんせそ  
ん かんぜおんぼさ うんがゆうし  
しゃばせかい  
無盡意菩薩は、仏に白して言わく。世尊よ、觀世音菩薩はいかんがこの娑婆世界に遊び、

云何而為衆生說法方便之  
力其事云何

うんがにい しゅじょうせつぼう  
ほうべんしりき ごじうんが  
いかんがしかも衆生のために法を説  
くや。方便の力その事いかん。

36

佛告無盡意菩薩善男子若  
有國土衆生

ぶつごうむじんにぼさ ぜんなんし  
にやくうこくどしゅじょう  
仏、無盡意菩薩に告ぐ。善男子よ、  
もし國土ありて衆生の、

37

應以佛身得度者觀世音菩  
薩即現佛身而為說法

おういぶつしん とくどしや かん  
ぜおんぼさ そくげんぶつしん に  
いせつぼう  
まさに仏の身をもつて得度すべきも  
のには、觀世音菩薩はすなわち仏の  
身を現じて、ために法を説く。

38

應以辟支佛身得度者即現  
辟支佛身而為說法

おういびやくしぶつしん とくど  
しや そくげんびやくしぶつしん  
にいせつぼう  
まさに辟支佛の身をもつて得度すべ  
きものには、すなわち辟支佛の身を  
現じて、ために法を説き、

39

應以聲聞身得度者即現聲  
聞身而為說法

おういしょうもんしん とくどしや  
そくげんしょうもんしん にいせつ  
ぼう  
まさに聲聞の身をもつて得度すべ  
きものには、すなわち聲聞の身を現  
じて、ために法を説く。

40

應以梵王身得度者即現梵  
王身而為說法

おういぼんのうしん とくどしや  
そくげんぼんのうしん にいせつぼ  
う  
まさに梵王の身をもつて得度すべ  
きものには、すなわち梵王の身を現  
じて、ために法を説き、

41

應以帝釋身得度者即現帝  
釋身而為說法

おういたいしやくしん とくどしや  
そくげんたいしやくしん にいせつ  
ぼう  
まさに帝釋の身をもつて得度すべ  
きものには、すなわち帝釋の身を現  
じて、ために法を説き、

42

應以自在天身得度者即現自在天身而為說法

【六の天身】 自在天身

おういじざいてんしん とくどしや  
そくげんじざいてんしん にいせつ  
ぼう  
まさに自在天の身をもつて得度すべき  
ものには、すなわち自在天の身を  
現じて、ために法を説き、

應以大自在天身得度者即現大自在天身而為說法

【六の天身】 大自在天身

おういだいじざいてんしん とくど  
しや そくげんだいじざいてんしん  
にいせつぼう  
まさに大自在天の身をもつて得度す  
べきものには、すなわち大自在天の  
身を現じて、ために法を説き、

應以天大將軍身得度者即現天大將軍身而為說法

【六の天身】 天大將軍身

おういてんだいしようぐんしん と  
くどしや そくげんでんだいしよ  
ぐんしん にいせつぼう  
まさに天の大將軍の身をもつて得度  
すべきものには、すなわち天の大將  
軍の身を現じて、ために法を説き、

應以毘沙門身得度者即現毘沙門身而為說法

【六の天身】 毘沙門身

おういびしやもんしん とくどしや  
そくげんびしやもんしん にいせつ  
ぼう  
まさに毘沙門の身をもつて得度すべ  
きものには、すなわち毘沙門の身を  
現じて、ために法を説く。

應以小王身得度者即現小王身而為說法

【五の人身】 小王身

おういしょうおうしん とくどしや  
そくげんしょうおうしん にいせつ  
ぼう  
まさに小王の身をもつて得度すべき  
ものには、すなわち小王の身を現じ  
て、ために法を説き、

應以長者身得度者即現長者身而為說法

【五の人身】 長者身

おういちようじやしん とくどしや  
そくげんちようじやしん にいせつ  
ぼう  
まさに長者の身をもつて得度すべき  
ものには、すなわち長者の身を現じ  
て、ために法を説き、

應以居士身得度者即現居士身而為說法

【五の人身】 居士身

おういこじしん とくどしや そく  
げんこじしん にいせつぼう  
まさに居士の身をもつて得度すべき  
ものには、すなわち居士の身を現じ  
て、ために法を説き、

應以宰官身得度者即現宰官身而為說法

【五の人身】 宰官身

おういさいかんしん とくどしや  
そくげんさいかんしん にいせつぽ  
う  
まさに宰官の身をもって得度すべき  
ものには、すなわち宰官の身を現じ  
て、ために法を説く。

應以婆羅門身得度者即現婆羅門身而為說法

【五の人身】 婆羅門身

おういばらもんしん とくどしや  
そくげんばらもんしん にいせつぽ  
う  
まさに婆羅門の身をもって得度すべ  
きものには、すなわち婆羅門の身を  
現じて、ために法を説き、

應以比丘比丘尼優婆塞優婆夷身得度者即現比丘比丘尼優婆塞優婆夷身而為說法

【四部衆（しぶしゆう）】

おういびく びくに うばそく うばいし  
ん とくどしや そくげんびく びくに  
うばそく うばいしん にいせつぽう  
まさに比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷の身を  
もって得度すべきものには、すなわち比丘・比  
丘尼・優婆塞・優婆夷の身を現じて、ために法  
を説き、

應以長者居士宰官婆羅門婦女身得度者即現婦女身而為說法

【四の婦女身】

おういちようじやこじ さいかんば  
らもんぶによしん とくどしや そ  
くげんぶによしん にいせつぽう  
まさに長者・居士・宰官・婆羅門の婦女の  
身をもって得度すべきものには、すなわち  
婦女の身を現じて、ために法を説き、

應以童男童女身得度者即現童男童女身而為說法

【二の童身】

おういどうなんどうによしん とく  
どしや そくげんどうなんどうによ  
しん にいせつぽう  
まさに童男・童女の身をもって得度  
すべきものには、すなわち童男・童  
女の身を現じて、ために法を説く。

應以天龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人等身得度者即皆現之而為說法

【天龍八部衆】

おういてん りゆう やしや げんだつばあ  
しゆら かるら きんなら まごらが げん  
びにんとうしん とくどしや そっかいげんし  
にいせつぽう  
まさに天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓  
羅・緊那羅・摩睺羅伽・人・非人等の身をもつ  
て得度すべきものには、すなわちみなこれを現  
じて、ために法を説き、

應以執金剛神得度者即現執金剛神而為說法

【執金剛一身】

おういしゆうこんごうじんとくど  
しや そくげんしゆうこんごうじん  
にいせつぽう  
まさに執金剛神をもって得度すべき  
ものには、すなわち執金剛神を現じ  
て、ために法を説く。



無盡意是觀世音菩薩成就  
如是功德

57

むじんによぜかんぜおんぼさ じよ  
うじゆによぜくどく  
無盡意よ。この觀世音菩薩は、かく  
のごとき功德を成就して、

以種種形遊諸國土度脫衆  
生

58

いしゆじゆぎよう ゆうしよこくど  
どだつしゆじよう  
種種の形をもつてもろもろの国土に  
遊び、衆生を度脱するなり。

是故汝等應當一心供養觀  
世音菩薩

59

ぜこによとう おうとう いっしん  
くようかんぜおんぼさ  
このゆえに、なんじら、まさに一心  
に觀世音菩薩を供養すべし。

是觀世音菩薩摩訶薩於怖  
畏急難之中能施無畏

60

ぜかんぜおんぼさまかさ おふい  
きゆうなんしちゆう のうせむい  
この觀世音菩薩摩訶薩は、怖畏の急  
難の中において、よく無畏を施す。

是故此娑婆世界皆號之為  
施無畏者

61

ぜこししやばせかい かいごうしい  
せむいしや  
このゆえに、この娑婆世界に、み  
な、これを號けて施無畏者となすな  
り。

無盡意菩薩白佛言世尊我  
今當供養觀世音菩薩

62

むじんにぼさ びやくぶつごん せ  
そん がこんとうくよう かんぜお  
んぼさ  
無盡意菩薩は仏に白して言わく。世  
尊よ、われ今まさに觀世音菩薩を供  
養すべし。

即解頸衆寶珠瓔珞價直百  
千兩金而以與之作是言仁  
者受此法施珍寶瓔珞

63

そくげきようしゆう ほうしゆようらく  
きひやくせんりようごん にいよし さぜごん  
にんじや じゆしほつせ ちんぼうようらく  
すなわち、頸のもろもろの寶珠の瓔珞の價、百  
千兩の金に直するを解きて、しかもつてこれ  
を與え、この言を作す。仁者よ、この法施の珍  
寶の瓔珞を受けよ。

時觀世音菩薩不肯受之

じかんぜおんぼさ ふこうじゆし  
ときに觀世音菩薩は、あえてこれを  
受けず。

無盡意復白觀世音菩薩言  
仁者愍我等故受此瓔珞

むじんに ぶびやくかんぜおんぼさ  
ごん にんじや みんがとうこ  
じゆしようらく  
無盡意は、また觀世音菩薩に白して  
言わく。仁者よ、われらを愍れむが  
ゆえに、この瓔珞を受けよ。

爾時佛告觀世音菩薩

にじぶつごう かんぜおんぼさ  
そのとき、仏は觀世音菩薩に告ぐ。

當愍此無盡意菩薩及四衆天  
龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅  
緊那羅摩睺羅伽人非人等故  
受是瓔珞

とうみんし むじんにぼさ ぎゆうししゆう  
てん りゆう やしや けん だつば あしゆう  
かる きんなら まごらが にん びにと  
うこ じゆぜようらく  
まさにこの無盡意菩薩および四衆・天・龍・夜  
叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅  
伽・人・非人等を愍れむがゆえに、この瓔珞を  
受くべし。

即時觀世音菩薩愍諸四衆  
及於天龍人非人等受其瓔  
珞

そくじかんぜおんぼさ みんしよし  
しゆう ぎゆうおてんりゆう にん  
ぴにんとう じゆごようらく  
そのとき、觀世音菩薩は、もろもろ  
の四衆および天・龍・人・非人等を  
愍れんで、その瓔珞を受け、

分作二分一分奉釋迦牟尼  
佛一分奉多寶佛塔

ぶんさにぶん いちぶんぶしやくかむ  
にぶつ いちぶんぶたほうぶつとう  
分けて二分となし、一分を釋迦牟尼  
佛に奉り、一分を多寶佛の塔に奉  
る。

無盡意觀世音菩薩有如是  
自在神力遊於娑婆世界

むじんに かんぜおんぼさ うによ  
ぜじざいじんりき ゆうおしやばせ  
かい  
無盡意よ、觀世音菩薩にはかくのご  
とき自在神力ありて、娑婆世界に遊  
ぶなり。

爾時無盡意菩薩以偈問曰

にじむじんにぼさ いげもんなつ  
そのとき、無盡意菩薩は、偈をもつて問いて曰く。

世尊妙相具  
佛子何因縁  
我今重問彼  
名為觀世音

世尊にようそうぐ がこんじゆう  
もんぴぶつしがいんねん みよう  
いかんぜおん  
世尊は妙相を具す われ今、重ねてかれを問う 仏子は何の因縁もて名づけて觀世音となすや

具足妙相尊  
汝聽觀音行  
偈答無盡意  
善應諸方所

ぐそくみようそうそん げとうむじ  
んにようちようかんのんぎよう  
ぜんのうしよほうしよ  
妙相を具足せる尊は 偈もて無盡意に答う 汝よ、觀音の行の よくもろもろの方所に応ずるを聴け

弘誓深如海  
侍多千億佛  
歷劫不思議  
發大清淨願

ぐぜいじんによかい りやつこうふ  
しぎじたせんのかぶつ ほつだい  
しようじようがん  
弘誓の深きこと海のごとし 劫を歴るとも思議しえざらん 多千億の仏に侍えて 大清淨の願を發す

我為汝略說  
心念不空過  
聞名及見身  
能滅諸有苦

がいによりやくせつ もんみよう  
ぎゆうけんしん しんねんふくうか  
のうめつしようく  
われ、なんじがために略說せん 名を聞き、および身を見て 心に念じて空しく過ごさざれば よく諸有の苦を滅せん

假使興害意  
念彼觀音力  
推落大火坑  
火坑變成池

けしこうがいい すいらくだいか  
きようねんぴかんのんりき か  
きようへんじようち  
たとい害する心を興して 大なる火の坑に推き落とされんも かの觀音の力を念ずれば 火の坑は變じて池とならん

【十三難】

火坑の難

76

或漂流巨海  
念彼觀音力  
龍魚諸鬼難  
波浪不能没

わくひようりゆうこかい りゆう  
ぎよしよきなん ねんぴかんのんり  
きはろうふのうもつ  
あるいは巨海に漂流して 龍、魚、諸鬼の難あらんも かの觀音の力を念ずれば 波浪も没することあたわざらん

【十三難】

龍魚の難

77

或在須彌峯 為人所推墮  
念彼觀音力 如日虛空住

【十三難】 須彌峯の難

わくざいしゆみぶ いにんしよすい  
だくねんぴかんのんりき によにち  
こくうじゆう  
あるいは須彌の峯にありて 人の推き墮  
とすところとなるも かの観音の力を念  
ずれば 日のごとくにして虚空に住せん

或彼惡人逐 墮落金剛山  
念彼觀音力 不能損一毛

【十三難】 金剛墮落の難

わくひあくにんちく だらくこんご  
うせん ねんぴかんのんりき ふの  
うそんいちもう  
あるいは惡人に逐われて 金剛山よ  
り墮落するも かの観音の力を念ず  
れば 一毛をも損することあたわず

或值怨賊繞 各執刀加害  
念彼觀音力 咸即起慈心

【十三難】 怨賊の難

わくちおんぞくによう かくしゆう  
とうかがい ねんぴかんのんりき  
げんそくきじしん  
あるいは怨賊の繞みて おのおの刀を執りて害  
を加うるに値うも かの観音の力を念ずれば  
ことごとくたちまち慈心を起こさん

或遭王難苦 臨刑欲壽終  
念彼觀音力 刀尋段段壞

【十三難】 王難

わくそうおうなんく りんぎようよ  
くじゆうじゆう ねんぴかんのんりき  
とうじんだんだんね  
あるいは王難の苦に遭い 刑に臨みて寿  
終わらんとするも かの観音の力を念ず  
れば 刀は尋に段段に壞れなん

或囚禁枷鎖 手足被扭械  
念彼觀音力 釋然得解脱

【十三難】 枷鎖扭械の難

わくしゆうきんかさ しゆそくひ  
ちゆうかい ねんぴかんのんりき  
しやくねんとくげだつ  
あるいは枷鎖に囚禁せられ 手足に扭械  
を被るも かの観音の力を念ずれば 釋  
然として解脱することを得ん

呪詛諸毒藥 所欲害身者  
念彼觀音力 還著於本人

【十三難】 呪詛毒藥の難

しゆそしよどくやく しよよくがい  
しんじや ねんぴかんのんりき げ  
んじやくおほんにん  
呪詛ともろもろの毒藥に 身を害せ  
んとせらるるもの かの観音の力を  
念ずれば 還りて本人に著かん

或遇惡羅刹 毒龍諸鬼等  
念彼觀音力 時悉不敢害

【十三難】 羅刹鬼の難

わくぐうあくらせつ どくりゆう  
しよきとう ねんぴかんのんりき  
じしつぷかんがい  
あるいは惡羅刹 毒龍・もろもろの鬼等  
に遇わんも かの観音の力を念ずれば  
ときにことごとくあえて害わざらん

若惡獸圍繞 利牙爪可怖  
念彼觀音力 疾走無邊方

【十三難】

惡獸の難

にやくあくじゆういにようりげそ  
うかふねんぴかんのんりきしつ  
そうむへんぼう  
もし惡獸に圍遶せられて 利き牙爪  
の怖るべからんも かの觀音の力を  
念ずれば 疾く無邊の方に走らん

85

疣蛇及蝮蠍 氣毒煙火燃  
念彼觀音力 尋聲自迴去

【十三難】

疣蛇蝮蠍の難

がんにやぎゆうふつかつ けどくえ  
んかねんねんぴかんのんりきじ  
んじようじえこ  
疣蛇および蝮蠍の 氣毒の煙火の燃  
ゆるごとくならんも かの觀音の力  
を念ずれば 声に尋いで自か回り去  
らん

86

雲雷鼓掣電 降雹澍大雨  
念彼觀音力 應時得消散

【十三難】

雲雷掣電の難

うんらいくせいいでん ごうばくじゆ  
だいうねんぴかんのんりき おう  
じとくしようさん  
雲りて雷鼓り掣電き 電を降らし大  
雨を澍がんも かの觀音の力を念ず  
れば 時に応じて消散することを得  
ん

87

衆生彼困厄 無量苦逼身  
觀音妙智力 能救世間苦

88

しゆじようひこんにやく むりよう  
くひつしん かのんみようちりき  
のうぐせけんく  
衆生の困厄を被りて 無量の苦の身  
に逼らんも 觀音の妙智の力は よ  
く世間の苦を救わん

具足神通力 廣修智方便  
十方諸國土 無刹不現身

89

ぐそくじんつうりき こうしゆうち  
ほうべん じつぽうしよこくど む  
せつふげんしん  
神通力を具足して 広く智の方便を  
修し 十方のもろもろの國土に 刹  
として身を現ぜざることなけん

種種諸惡趣 地獄鬼畜生  
生老病死苦 以漸悉令滅

90

しゆじゆしよあくしゆ じごつきち  
くしようしようろうびようしく  
いぜんしつりようめつ  
種種のもろもろの惡趣 地獄、鬼、  
畜生、生、老、病、死の苦 もつて  
漸くことごとく滅せしめん

眞觀清淨觀 廣大智慧觀  
悲觀及慈觀 常願常瞻仰

91

しんかんしようじようかん こうだ  
いちえかん ひかんぎゆうじかん  
じようがんにようせんごう  
眞の觀、清淨の觀 廣大なる智慧の  
觀 悲の觀および慈の觀 つねに願  
いつねに瞻仰すべし

【五觀（五眼）】

無垢清淨光  
能伏災風火  
慧日破諸闇  
普明照世間

むくしようじようこう えにちは  
みやうしようせけん ふ  
無垢清淨の光ある 慧日はもろもろ  
の闇を破し よく災の風火を伏し  
普く明らかに世間を照らす

悲體戒雷震  
澍甘露法雨  
慈意妙大雲  
滅除煩惱燄

ひたいかいらいしん じいみようだ  
じよぼんのうえん ほうう めつ  
悲体の戒は雷震のごとく 慈意は妙  
なる大雲のごとし 甘露の法雨を澍  
ぎ 煩惱の焰を滅除す

諍訟經官處  
念彼觀音力  
怖畏軍陣中  
衆怨悉退散

【十三難】

諍訟軍陣の難

妙音觀世音  
勝彼世間音  
梵音海潮音  
是故須常念

【五音】

念念勿生疑  
於苦惱死厄  
觀世音淨聖  
能為作依怙

みようおんかんぜおん ぼんのんか  
いちしようおん しようひせけんのか  
ぜこしゆじようねん  
妙なる音、世を觀ずる音 梵の音、海潮  
の音 かの世間に勝れたる音あり この  
故にすべからくつねに念ずべし  
ねんねんもつしようぎ かんぜおん  
じようしよう おくのうしやく の  
ういさえこ  
念念に疑いを生ずることなかれ 觀  
世音淨聖は 苦惱と死厄とにおいて  
よくために依怙とならん

具一切功德  
福聚海無量  
慈眼視衆生  
是故應頂禮

爾時持地菩薩即從座起前  
白佛言

にじじじぼさ そくじゆうざき ぜ  
んびやくぶつごん  
そのとき、持地菩薩はすなわち座よ  
り起ち、前みて仏に白して言わく。

世尊若有衆生聞是觀世音菩薩品自在之業普門示現神通力者當知是人功德不少

99

せそん にやくうしゆじよう もんげかんぜおん  
んほさぼん じざいしごう ふもんじげんじん  
つうりきしや とうちぜにんくどくふしよう  
世尊よ。もし衆生の、この觀世音菩薩品の自在の業、普門示現の神通力を聞くものあらば、まさに知るべし、この人の功德は少なからずと。

佛說是普門品時衆中八萬四千衆生皆發無等等阿耨多羅三藐三菩提心

100

ぶつせつぜ ふもんぼんじ しゆちゆうはちま  
んしせんしゆじよう かいほつむとうどう あ  
のくたらさんみやくさんほだいしん  
仏、この普門品を説きしとき、衆中の八万四千の衆生は、みな無等等の阿耨多羅三藐三菩提の心を發せり。

## 觀音經カード

A4版でプリントアウトし二つに折り、切り離せばカードができます。

觀音經の読み方は宗派により少し異なります。

ここでは、真言宗の読み方によっています。

なお同じ宗派でもお寺によりその伝承によって異なる部分があります。

参考書籍等

- ・ 改訂新版高野山真言宗在家勤行次第  
高野山真言宗総本山金剛峯寺 教学部
- ・ 真言宗理趣經・心經・觀音經  
(昭和六十三年十二月二十七日)高野山金剛峯寺
- ・ 真言宗常用經典  
(平成四年五月一日)高野山専修学院
- ・ 觀音經読み解き事典  
(二〇〇〇年六月二五日)觀音經事典編纂委員会編 柏書房

記載した内容については十分確認をしていますが、万一の誤記等については、一切責任を負いません。